

歴博 暮らしの植物苑だより

第11回『日本の植物文化を語る』12月16日(土) 13:30~ 本館講堂

「花木文化の粋—ツバキとサザンカの世界—」 箱田直紀(恵泉女学園大学)

第95回『暮らしの植物苑観察会』1月27日(土) 13:30~ 暮らしの植物苑

「水田と焼畑」 西谷大(本館研究部考古研究系)

季節の伝統植物

冬の華・サザンカ 開催中

サザンカの各品種群の特徴

・サザンカ群：野生のサザンカの特徴を残し、樹形は立性、開花期も野生に近い。花色は白が基本で白から紅ぼかしで、がくから花びらまでの分化が不安定です、おしべが花弁に変わらず、花弁数の多い一重から半八重咲き。花弁と雄ずいはばらばらに散る。



羽衣

・カンツバキ群：樹形は横張性が多く、花色は白から紅、まれに紅ぼかしで、おしべの一部が花弁に変わり、八重咲きから獅子咲きになる。公園などの植え込みにはこの品種の立寒椿(勘次郎)が多く植えられています。花弁と雄ずいはばらばらに散ります。



立寒椿

・ハルサザンカ群：樹形は立性から横張り性、ツバキとサザンカの雑種と思われる。花色は白から紅、縦絞り、ふち紅ぼかし、ツバキに近いものから、サザンカに近いものまでさまざま、一重咲き~千重咲きものまでである。多くは花弁と雄ずいが互いについて散る。



星飛竜

比較としてヤブツバキ：樹形は立性から横張り性で、花は紅が基本で白から紅、縦絞り、一重咲きから千重咲き、花弁と雄ずいがつきたまま落花する。

①イロハモミジ (カエデ科カエデ属)

紅葉の美しい時期です。名は葉の裂片を端からイロハニと数えることができるので、付いたと言われます。庭園などによく植えられていて、園芸品種が多いです。



②ビワ (バラ科ビワ属)

中国原産の常緑の果樹で、西日本に野生もあるが、現在の栽培品種は江戸時代に渡ってきたものです。枝の先には円錐花序が付き、芳香のある小さな花が100個前後つきます。花は綿毛に覆われています。



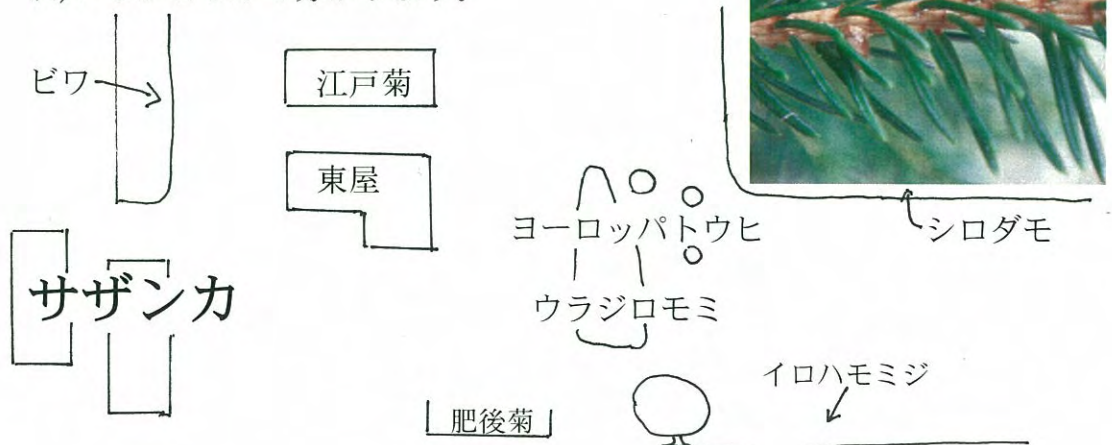
③シロダモ (クスノキ科シロダモ属)

常緑高木で、雌雄異株。写真は雌株で白い花柱が目立ちます。常緑広葉樹のなかでも、耐寒性が強く。ありふれた木ですが、葉が3脈、雌株は花と果実が同時に見られるなどよく見ると楽しい木です。



④モミとトウヒ (観察会の事例)

観察会『クリスマスの針葉樹』のお話しの識別のポイントを。モミ属は葉のつけ根も葉と同じ緑色で、膨らんだように引っ付いています(上)。トウヒ属は葉のつけ根が茶色になっています(下)。また球果が上を向いて(モミ属)いるかどうかで分かります。



くらしの植物苑だよりで第11回『日本の植物文化を語る』の日程がご間違っていました。訂正しておわびいたします。